

日本学術会議 力学基盤工学分科会（第4回）、
力学の深化・展開小委員会（第2回） 合同会議 議事録

日時 平成31年1月23日（水）10:30～12:30

会場 日本学術会議5階 5-C(1) 会議室

出欠 （◎委員長，○副委員長，△幹事）

力学基盤工学分科会

出席 菱田公一，吉村忍，△荒木稚子，梶島岳夫，◎岸本喜久雄，北村隆行，塩見淳一郎，○高田保之，田中和博，塚田竹美，萩原一郎，橋口公一，水野毅，門出政則，矢川元基，山西陽子

欠席 但野茂，藤井孝蔵，金子成彦，河合宗司，小机わかえ，渋谷陽二，△松尾亜紀子，松本洋一郎，山崎光悦

力学の深化・展開小委員会

出席 菱田公一，△荒木稚子，梶島岳夫，◎岸本喜久雄，北村隆行，塩見淳一郎，○高田保之，塚田竹美，山西陽子，畔上秀幸，高木周

欠席 藤井孝蔵，吉村忍，金子成彦，河合宗司，小机わかえ，渋谷陽二，△松尾亜紀子，萩原直道，鈴木雄二，中谷彰宏，西村直志

配布資料

- 資料1 前回議事録
- 資料2 第4回理論応用力学シンポジウムチラシ
- 資料3 第65回理論応用力学講演会チラシ
- 資料4-1 理論応用力学コンソーシアム組織図案
- 資料4-2 理論応用力学コンソーシアム規定（案）
- 資料4-3 General Assembly of IUTAM in Boston 参加報告
- 資料4-4 IUTAM Newsletter
- 資料4-5 マスタープラン公募要領

議事

1. 前回議事録の確認（資料1）

岸本委員長より，資料1に基づき説明があり，原案が承認された。

2. 理論応用力学シンポジウムについて（資料2）

岸本委員長より，資料2に基づき説明があった。毎年開催することを前提として，来年度は早めに準備を進めることとなった。

3. 理論応用力学講演会について（資料3）

岸本委員長・菱田委員より，来年度は第22回土木学会応用力学シンポジウムと併催の形で開催

することが報告された。

- ・資料3の日程に変更があったことが報告された。(正しくは6月28日(金)～30日(日))
- ・これまでの開催形式(日本学術会議主催)とは異なり、IUTAM分科会が企画、日本学術会議が後援という形を取ることが報告された。

4. 今後の活動について

・日本工学会理論応用力学コンソーシアムについて(資料4-1,4-2)

岸本委員長より、資料4-1,4-2に基づき、幅広い活動とIUTAM誘致を目指し、日本工学会の中の組織として理論応用力学コンソーシアムを設置する案が説明された。

- ・本コンソーシアム設置の提案経緯とIUTAM分科会での議論が説明され、既にIUTAM分科会内では合意が得られていることが報告された。
- ・本コンソーシアムが理論応用力学講演会を主催する組織となる案が説明された。
- ・資料4-2に基づき、本コンソーシアムの会員や会計などに関する規程が説明された。
- ・理学系の参加取り扱いについては、随時丁寧に説明が行われることとなった。
- ・本コンソーシアム設置案が承認され、設置に向けて委員への協力要請がなされた。

・IUTAMについて(資料4-3,4-4)

岸本委員長・菱田委員より、資料4-3,4-4に基づき、Meeting of the General Assembly of IUTAM in Boston 参加報告がなされた。

- ・Congress Committee(CC)として、高木委員が選出されたことが報告された。
- ・2021年に流体と固体のIUTAMシンポジウムが日本国内で開催されることが報告された。
- ・ICTAM2024の開催地として、東京、アーヘンなどが立候補していることが報告された。

5. その他

・マスタープランについて(資料4-5)

塩見委員より、機械工学の将来展望分科会・学協会連携小委員会での議論およびマスタープラン提出に向けた準備状況が説明された。

- ・各学協会の代表と若手研究者数名の提案に基づき、現在7~8案が候補となっていることが報告された。
- ・4月16日に関連シンポジウムが開催されることが報告され、参加要請がなされた。
- ・力学基盤工学分科会からも一案を提出する方向で、今後議論を進めることとなった。

以上